

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 7 月 10 日

【評価実施概要】

事業所番号	2070102781		
法人名	社会福祉法人善光寺大本願福祉会		
事業所名	グループホーム川田の宿		
所在地	長野県長野市若穂川田1 3 5 8 番地 1 (電 話) 026-282-6751		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1-35-5		
訪問調査日	平成19年7月10日	評価確定日	平成19年8月24日

【情報提供票より】 (平成19年 6月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 3人, 非常勤 15人, 常勤換算16.6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1 階建ての	～ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷 金	有 ( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成19年 6月27日現在 )

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護 1	4名	要介護 2	5名
要介護 3	5名	要介護 4	3名
要介護 5	1名	要支援 2	0
年齢	平均 86 歳	最低 78 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	峯村医院、立岩医院、川田鈴木医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体の善光寺大本願福祉会の基本理念を基にグループホーム川田の宿の理念が作られている。福祉会の理念の中の「・・・暖かな愛の手をさしのべ、み仏のお慈悲を実践したい。」がホームの理念である「もうひとつのわが家」に活かされ、入居している一人ひとりが个性的に、生き生きと、楽しく生活が出来る場所となっている。地域密着型にふさわしく、ボランティアの受け入れや非常時の協力応援体制が地区と連携し行われている。ホームは地区の人々にこれからの福祉のあり方などを自然な形で伝えており、関係づくりも着々と進んでいる。開設時より職員の異動が少なく、入居者、入居者家族、職員との良好な人間関係が積み上げられ、入居者の「安心」、ホームへの「信頼」へと繋がっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 介護計画に連動した個別の記録方法に改訂し、実施状況等をわかり易く記録し、見直しの際も把握し易くなっている。玄関に「ご意見箱」が設置され、意見、要望等については、管理者・職員が定例会議等で話し合い、ホームの運営に活かしている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	事業計画にも年間予定として盛り込まれており、常勤・非常勤を問わず全員参加のもとに行われた。管理者は、現場の意見を良く聞き入れ、ケア等入居者の生活に反映させている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に一回運営推進会議が行われている。利用者家族代表・地区代表・市職員等で構成され、毎回有意義な意見の交換が行われている。会議のメンバーの人選にも配慮のあとが見られ、双方向の会議となっていることが議事録等からも窺えた。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 事業計画、ホーム便り、請求書、近況連絡などが家族宛に文書で送付されている。家族がホームに訪問の際も、意見などを聞き取る努力をしている。家族からの事業計画に対しての提案事項なども聞かれている。入り口には「ご意見箱」を設置しており、気軽に、誰でも意見などが言えるようにしている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域密着型の見本ともなるような取り組みがされている。ホームの生活全般に地域とのかかわりが密接に保たれており、自治会、防災協定、ボランティア、医療面などで地域の関係者と手を携えている。職員も「地域とともに」という意識が強く、今後更に地域に根付いていこうと、ホームからの働きかけが積極的に行われている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体である「社会福祉法人善光寺大本願福祉会」の基本理念を基に地域密着型グループホームとしての理念が掲げられている。契約書・重要事項説明書等に書かれており、入居者・家族に説明をしている。	○	契約書・重要事項説明書等に記載はされているが、一見して「理念」と分かるような工夫をお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員はケア会議等で理念を確認し、ケアプランにも具体化している。リビング、廊下の掲示板等にも掲示されており、入居者とともに毎日の生活の中で実践している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、区費を支払い、行事にも参加している。地区の共同作業にも参加しており、お祭り・運動会等への参加を通じて交流を深めている。近隣の住民によるボランティアグループの来訪もあり着実に地域に根付いている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全員参加のもとに行っている。それぞれの立場から、どんな事でも発言している。年間行事予定を立てる際にも自己評価のスケジュールを入れ全員に知らしめている。また、結果についても利用者家族に公表しており、課題解決にむけ前向きに取り組んでいる。		

グループホーム川田の宿

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回の割合で運営推進会議が行われている。また、会議の内容も回を重ねるごとに、踏み込んだ話し合いとなっている。自己評価・外部評価も会議での議題となるよう計画されている。運営推進会議のメンバーの人選にも配慮のあとが見られる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月一回、市の「あんしん相談員」の訪問を受け入れている。運営推進会議のメンバーに地域包括支援センターの職員も入っており、ホームの考え方や実態を伝えている。運営等の相談で市担当課との連携も取っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月一回家族へ請求書・領収書を送付する際に入居者の近況を報告している。事業計画・広報誌等の家族への送付も行っている。送付された事業計画などを見て、家族より直接の意見・感想なども寄せられている。	○	金銭管理帳には、現在、ホーム訪問時に家族等から確認印をいただいているが、訪問が少ない家族もいることから、月一回請求書送付時にコピー等を同封したら良いのではないだろうか。また、送付書類の字の大きさを少し大きめにした方が見やすいと思われる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族の訪問時に声かけをして会話をする努力をしている。運営推進会議で家族等より率直な意見が出されている。「ご意見箱」の設置が玄関にされている。意見等については、管理者・職員が定例会議等で話し合い、ホームの運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設より1年10ヶ月が経過しているが職員の異動は少ない。管理者は入居者にとって馴染みの職員との関わりが続くことが重要と考えている。パート職員の配置にも気を配り、増員している。ホーム発行の「かわら版」にも新入職員の紹介をし、家族への配布もされている。		

グループホーム川田の宿

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に研修も組み入れられている。また個人での研修希望があれば管理者へ願い書を出し、意向に沿えるようにしている。研修結果については定例会での報告・発表を義務付けている。管理者は職員の育成・能力向上に意欲的である。1年に一回管理者による個人面談が実施されており、職員の要望・意見などを聞いている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	善光寺大本願福祉会の運営する他事業所との交流が行われている。全国認知症グループホーム協会へも加盟している。現場職員の他事業所との交流機会が少ないように思われるが、地域のグループホームとのネットワークづくりや勉強会等への参加がすでに検討されている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者や計画作成担当者が自宅を訪問し面談している。一人ひとり対応が違うので、可能な限り本人の見学を勧め、本人・家族と十分話し合い、理解・協力を得るようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の生活の中で、入居者から調理や園芸等について教えてもらったり、人生相談にのってもらったりしている。職員は支援する側という意識ではなく、共同生活者という立場で臨んでいる。		

グループホーム川田の宿

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者・家族からの聞き取り調査により過去の生活暦等を把握している。本人の希望・家族の希望などを十分取り入れ、生活支援に活かしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン・ケアノート等がわかりやすい言葉で記入・表現されており、家族や職員がすぐに現状を把握できる。またケアプラン・ケアノート等に管理者・職員の確認印が押印されており、気づき、意見・要望等が介護計画の見直しに繋がっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	事業計画にも6ヶ月に一回の介護計画の見直しが記載されており、実際に行われている。また急な見直しが必要な場合は、随時対応している。介護計画は家族と関係職員との話し合いの上作成されている。介護計画は家族へ説明又は送付にて同意を得ている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医院への受診は原則として家族の方をお願いしているが、現状、職員が付き添い通院していることが多い。薬のみの場合もホームで手配し、職員が受け取りに行っている。居室担当職員も決められており、入居者の要望・依頼等には臨機応変かつ柔軟に対応している。		



グループホーム川田の宿


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医および協力医療機関との連携を密にしながら支援を行っている。現在、神経内科受診者もいるが、プライバシーに配慮しつつ、通院時にはケース記録等を提出し、適切な処方をしていただいている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去に入院によるターミナルのケースで、医師よりの説明を聞き、全職員で方針の共有を図ることが出来た。状態の変化があれば、かかりつけ医・医療機関との連携を密にし、重度化への対処をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約書にも個人情報保護のことが書かれており説明もしている（秘密保持）。トイレ誘導や食事介助での声かけ、居間での会話などから、職員は常に笑顔で、入居者を年長者として敬う姿勢が見られた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れは出来ているが決定ではない。入居者の行動を制限することではなく、散歩やトランプ等、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		

グループホーム川田の宿

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの過程で、一人ひとりの力量に応じて、手伝いをしてもらっている。誕生会などでは当事者に何が食べたいか聞いて対応している。入居者に応じた調理、盛り付けもされている。味付け等、ユニットごとに個性ある食事作りがされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日3人位の入浴を計画しているが決定ではない。毎日入浴を希望する入居者には対応している。入浴を拒否されたり、一人で入ることを拒んだりする時には職員も一緒に入浴することもある。車椅子の方でも職員が2人で介助し入浴できるように浴槽の両側にスペースが設けられている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	仕事の分担が入居者の中で自然に出来ている。菜園の草取り・苗の世話など、男性2人の入居者が中心になり作業している。雑巾を縫ったり、トランプゲームなどで楽しんでいる。入居者の発案で入居者職員全員参加でホーム周辺の草取りも行った。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、毎日散歩に出かけている。ユニットの建物・玄関が別々なので、入居者は隣の家に行くような感じで、各棟間を自由に行き来することもできる。毎日の食材等の買い出しにも職員同伴で出かけている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。徘徊の危険のある方にはお守りの中にセンサーを入れ、玄関にチャイムがなるように工夫もしているが、それ以上に、常に職員が入居者に気を配っており、見守りや声かけで対処している。		

グループホーム川田の宿

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難誘導訓練を年2回以上実施している。地元地区との応援協定も締結しており、年一回の総合防災訓練も行っている。地区の総会でも区民の皆様に協力をお願いをした。飲料水などの備蓄もされており、入居者用の防災頭巾も揃えられている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護士兼事務職員が利用者の希望などを取り入れて献立作成に当たっている。血圧の高い方には井もの具材を別のお皿に綺麗に取り分けるなど、普通に楽しめる工夫がされている。漬物なども刻ぎみ方を変えて盛り付けしてあり、塩分の摂取にも配慮がされている。寒い時期は、床暖房なので布団で就寝している方には、水分の補給を職員が随時行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、全員が揃って食事が出るテーブル・イスが用意されている。玄関入り口、玄関、廊下、居間等にはソファ・イスが用意され、思い思いに過ごせる場所が確保できている。照明も間接照明などが取り入れられていた。玄関入り口には、網戸が付けられており、季節を感じさせる場面作りができています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた家庭より多くの調度品が運び込まれていた。一人ひとりの希望に応じベッドの方、布団の方と色々であった。また、布団希望の方には畳を敷いて対応している。朝晩の布団の上げ下ろしに一日の始まりと終わりを体で感じられるように配慮されていた。		

※  は、重点項目。